応仁(おうにん)の乱と戦国時代

ポイント１　応仁の乱

＿＿＿にあてはまる語句を確認しましょう。

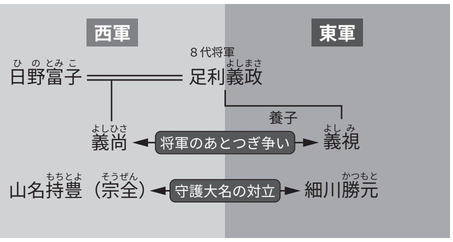
① 応仁の乱の背景

8代将軍＿**足利義政**(あしかがよしまさ)＿のあとつぎ争いなどから
守護大名(だいみょう)の細川(ほそかわ)氏（東軍）と山名(やまな)氏（西軍）が対立

↓

1467年＿**応仁の乱**＿がおこる
戦乱は京都から拡大し，11年間続く

資料1　応仁の乱が始まったころの対立関係



② 応仁の乱の影響

幕府の力がおとろえ，地方の武士や民衆が力をつける

↓

実力を持った下位の身分の者が上位の者に打ち勝つ＿**下剋上**(げこくじょう)＿の風潮が広がる

↓

＿**戦国**＿時代の始まりにつながる

ポイント２　一揆の発生

＿＿＿にあてはまる語句を確認しましょう。

1428年＿**正長の土一揆**(しょうちょうのつちいっき／ど)＿
場所：近江国（滋賀県）→京都周辺
内容：馬借(ばしゃく)らが徳政を求めて土一揆を起こし，土倉(どそう)や酒屋(さかや)などをおそう
　　　動きが近畿地方を中心に広がる

資料2　正長の土一揆（徳政一揆）の碑文

1485年　山城の国一揆（やましろのくにいっき）
場所：山城国（京都府南部）
内容：地方武士（国人）と農民が守護大名を追い出し，約8年間自治を行う

1488年　加賀の一向一揆（かがのいっこういっき）
場所：加賀国（石川県南部）
内容：一向宗（浄土真宗（じょうどしんしゅう））の門徒（もんと）が守護大名を追い出し，約100年間自治を行う

ポイント3　戦国時代

＿＿にあてはまる語句を確認しましょう。

① 戦国大名の登場

戦国大名：守護大名やその家臣などが力をつけ，下剋上の風潮の中で台頭してきた大名

戦国大名が領地拡大を求めて争った約100年間を戦国時代という

② 戦国大名の支配

独自の分国法（ぶんこくほう）を制定
城の周りに城下町（じょうかまち）をつくる

資料3 分国法の例（一部抜粋）

• 今川仮名目録（いまがわかなもくろく）
一　けんかをした者は，理由をとわず，両方とも死罪とする。
• 朝倉敏景十七箇条（あさくらとしかげじゅうしちかじょう）（朝倉孝景条々（あさくらたかかげじょうじょう））
一　朝倉家では特定の家老（かろう）を定めず，能力と忠節で決めること。
• 信玄家法（しんげんかほう）（甲州法度之次第（こうしゅうはっとのしだい））
一　許可を得ず他国へ贈り物や手紙を送ることはすべて禁止する。

➡ 喧嘩両成敗

確認テスト

次の問いに答えなさい。

(1) 将軍のあとつぎ争いなどから1467年に起こり，京都を中心に約11年続いた戦乱を何というか。	＿＿＿＿	**応仁の乱**
(2) 応仁の乱が起きたときの将軍は誰か。	＿＿＿＿	**足利義政**
(3) 戦国大名が城の周りにつくった町を何というか。	＿＿＿＿	**城下町**
(4) 戦国大名が独自につくった法律を何というか。	＿＿＿＿	**分国法**